



「日焼け」をすると、皮膚が黒くなるのはなぜ

日焼けというのは

「日焼け」をすると、皮膚が黒くなるのは、皮膚の下に、メラニンができるからです。皮膚は、外側から順に、表皮、真皮、皮下組織に分かれています。表皮の下の真皮とふれ合う部分には、メラニンという黒いつぶをつくる細胞があります。日光にあると、メラニンが増えて皮膚が黒くなり、これを日焼けといっています。

太陽の光には、体にいいものもあるけれど、紫外線とよばれる光には、体に悪いものもあるため、この紫外線が体に入りすぎないように、皮膚の表皮と真皮の間にできた、メラニンという黒いつぶが、紫外線を吸収してしまうのです。ですから、日焼けをするのは、強い太陽の光から、わたしたちの皮膚を守るためなのです。

日焼けすると皮膚がむけるのは

しかし、日焼けして皮膚がむけるのは、太陽の熱が皮膚にあたり、皮膚の細胞をかわかしてしまふからです。皮膚の細胞が、太陽の熱でからからになり、死んでしまうために、皮がはがれて、むけてしまうというわけです。これは、やけどをしたときと同じ状態です。体をあまり焼きすぎないように、注意しましょう。（監修・保志 宏）

